

平成 26 年度京都府民の意識調査の結果について

府計画推進課

はじめに

京都府では、府政の指針である「明日の京都」に掲げた約 400 の数値目標に基づき、府の施策等の成果を測定・点検し、絶え間なく施策の見直しを行うことによって、「明日の京都」を推進することとしています。

一方で、これらの指標では測定しえない「子育てのしやすさ」「はたらきやすさ」といった、府民の皆さまの生活実感を測るために「京都府民の意識調査」を行い、「京都府社会が『だれもがしあわせを実感できる社会』に向かっているか」や「府政運営の方向性が府民の皆さまの意識とかけ離れたものになっていないか」などを点検しています。

これら「京都府民の意識調査」と「数値目標」を活用することにより、京都府では、「明日の京都」の 3 つの基本方向（「府民安心の再構築」「地域共生の実現」「京都力の発揮」）に基づく 17 の分野毎に分析した現状・課題に基づき、重点的に取り組むべき課題を抽出し、予算編成等においてこれを活用して、次年度以降の施策展開を行っています。

ここでは、その「京都府民の意識調査」について、平成 26 年度に実施した調査結果の概要をお示しします。

1 調査の方法等

府内在住の 4,100 人（満 20 歳以上）を住民基本台帳から無作為抽出し、郵送で回答をいただきました。

抽出数の考え方は、次のとおりです。まず、平成 22 年実施の国勢調査の京都府の人口構成に比例するように 3,000 人を市町村別、性別、年齢階層別に配分しました。その上で、抽出数が少ないことによって調査精度が低下することを防ぐため、亀岡市以北の市町に 1,100 人を追加配分しました。

また、回答の集計に当たっては、国勢調査の人口構成（市町村別、性別、年齢階層別）と比例するように、再度、補正を行っています。

これらにより、本調査の精度を一定水準以上に保ち、調査の結果が府民の皆さまの生活実感と合致するようにしています。

2 結果の概要（資料参照）

（1）全体傾向

平成 26 年の調査（6 月実施）では、前回調査（平成 25 年 6 月）に比べて、14 項目で数値が上昇しました。また、「明日の京都」が目指す「だれもがしあわせを実感できる」京都府社会の姿により近いと 70% 以上の府民の方が実感しておられる項目は、14 項目ありました。

(2) 高い割合を示した項目

個別の項目をみますと、「これからも京都府に住み続けたいと思う人の割合」については、調査開始（平成23年度）以降、91～92%と、非常に高い割合で推移しています。

このほかに高い割合で推移している項目としては、「子育てに喜びややりがいを感じている親の割合」(96%)、「子どもが学校に行くことやそこで学ぶことに楽しさややりがいを感じていると思う親の割合」(89%)といった、子育てや(子ども)

もの)学びに関するものが挙げられます。また、「子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合」も、前回の83%から平成26年度調査では87%へと伸びを示し、高い割合を示しています。

さらに、「京都府が優れたまち並みや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合」(88%)、「京都府では歴史的な文化遺産や文化財等が社会全体で守られ、引き継がれていると思う人の割合」(89%)といった、自然環境や文化環境に関する項目についても、高い割合での推移がみられます。

(3) 低い割合を示した項目

反面、「地域の防犯または防災活動に取り組んでいる人の割合」(27%)、「地震などの災害に備えて、避難場所や経路の確認をはじめとする避難準備や物資の備蓄などに取り組んでいる人の割合」(32%)といった、防犯や災害への備えといった暮らしの安心に関する項目においては、前回調査に比べて改善はしているものの、低めの割合で推移しています。

そのほか、「様々な地域課題に対応する自治会

やNPOの活動などに参画している人の割合」(22%)、「府や市町村の実施する府民協働の取組に何らかの形で参画している人の割合」(10%)といった地域力の活性化に関する項目においても、低い傾向を示しており、また、前回調査と比べても数値が低くなっています(3～4ポイント低下)。

さらに、「障害のある人と交流したり、障害のある人を支援する活動などに参画している人の割合」(18%)も、低めの割合となっています。

3 属性による差異がみられる項目

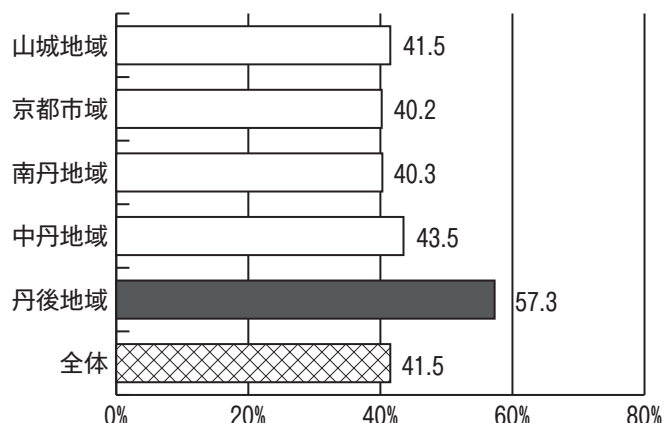
(1) 居住する地域による差異がみられた項目

「子どもの有無にかかわらず、学校行事や子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもの教育に参画している人の割合

についての、丹後地域において突出して高い割合(57.3%)を示しています(他の地域においては、40.2～43.5%。平均値は、41.5%)。(図1)

図1
子どもの有無にかかわらず、学校行事や子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもの教育に参画している人の割合

■ 全体集計値から15ポイント以上高い



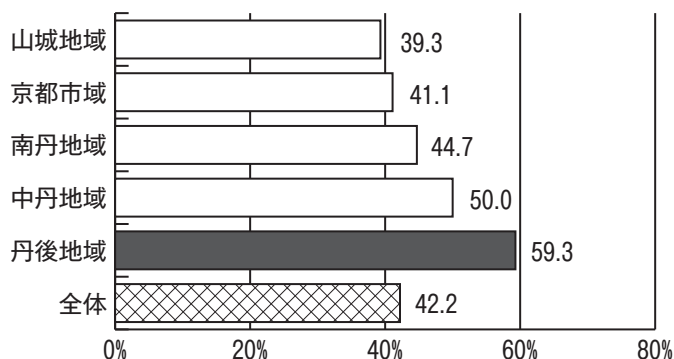
また、「地域の祭りや伝統行事に参加している人の割合」についても、丹後地域においては極めて高い割合（59.3%）を示しています（他の地域

においては、39.3～50.0%。平均値は、42.2%）。

（図2）

図2
地域の祭りや伝統行事に参加している人の割合

■ 全体集計値から15ポイント以上高い



一方、南丹・中丹・丹後地域と山城地域・京都市域で顕著な差異がみられた項目は、次のとおりです。

- ① 住んでいる地域に、就業、交通、情報通信、医療、教育、上下水道などの定住に必要な基盤が十分に整っていると思う（図3）
- ② 住んでいる地域に、博物館や美術館、劇場

や文化ホールなど、美術や音楽、演劇といった芸術文化活動を行うための場、あるいはそれらを鑑賞するための場が十分に整っていると思う（図4）

- ③ 住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると思う（図5）

図3
住んでいる地域に、就業、交通、情報通信、医療、教育、上下水道などの定住に必要な基盤が十分に整っていると思う人の割合

■ 全体集計値から15ポイント以上低い

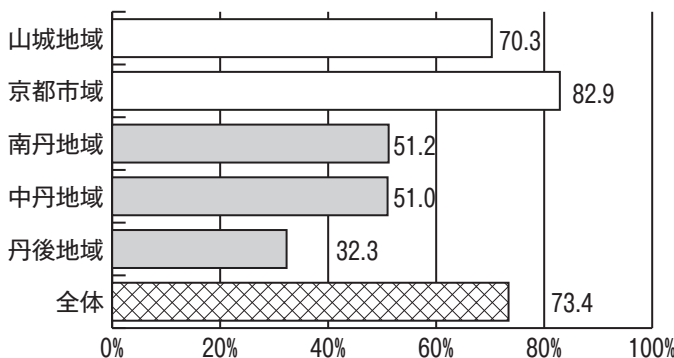


図4
住んでいる地域に、博物館や美術館、劇場や文化ホールなど、美術や音楽、演劇といった芸術文化活動を行うための場、あるいはそれらを鑑賞するための場が十分に整っていると思う人の割合

■ 全体集計値から15ポイント以上低い

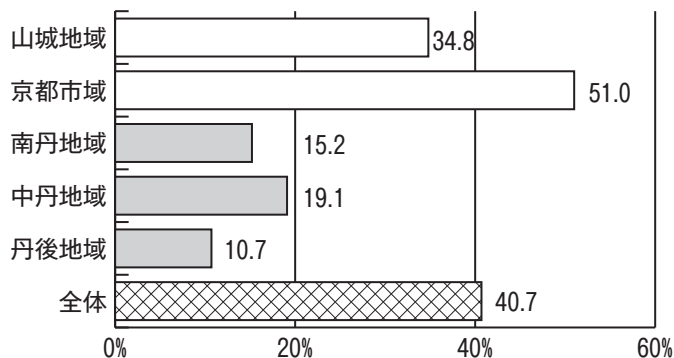
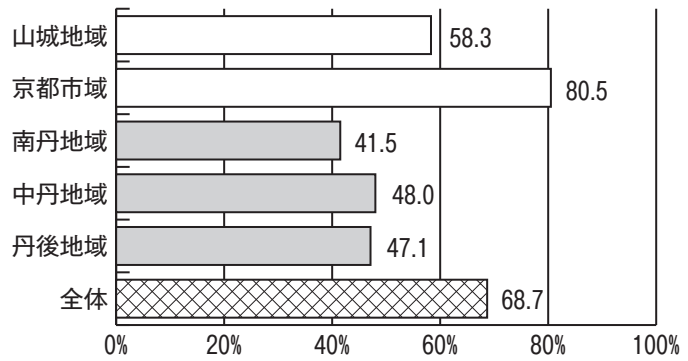


図5

住んでいる地域に、最寄りの診療機関
またはかかりつけ医へ行くための交通手
段（電車、バス等）が十分に整っている
と思う人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い



(2) 年齢による差異がみられた項目

次の項目においては、年齢層が上がるにつれて、その割合に逡増傾向がみられます（最小値は、20歳代又は30歳代）。

- ① 病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる (図6)
- ② 困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる (図7)
- ③ 様々な地域課題に対応する自治会やNPOの活動などに参画している (図8)

④ 食料を購入する際、地元産であることを意識して選んでいる (図9)

また、「仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合」は、20歳代から40歳代までは逡減傾向（64.9～72.8%）にあるものの、50歳代からは高い割合（80.0%）を示し、逡増傾向がみられました。(図10)

図6

病気やけがで困ったときに気軽に相談
できるかかりつけ医がいる人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上高い
■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

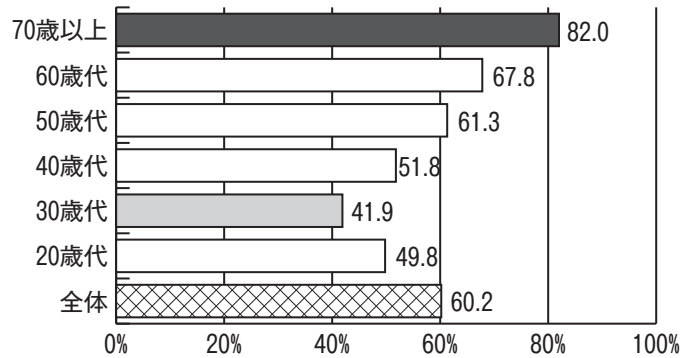


図7

困ったときに気軽に頼れるご近所さん
がいる人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上高い
■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

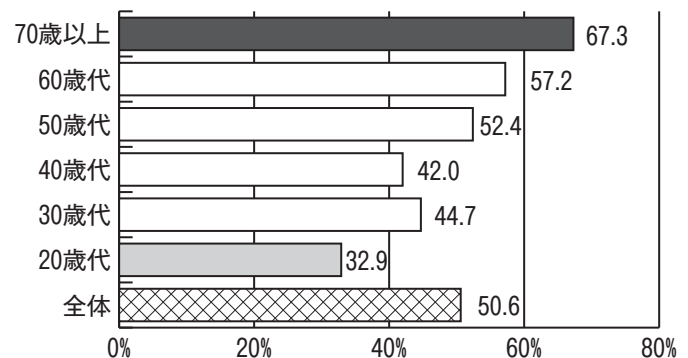


図8
様々な地域課題に対応する自治会やNPOの活動などに参画している人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

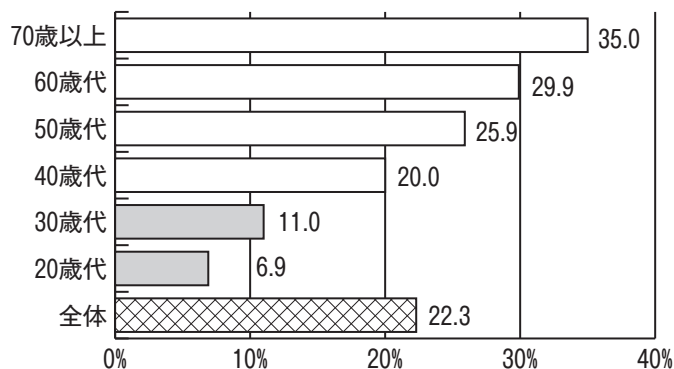


図9
食料を購入する際、地元産であることを意識して選んでいる人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上高い
■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

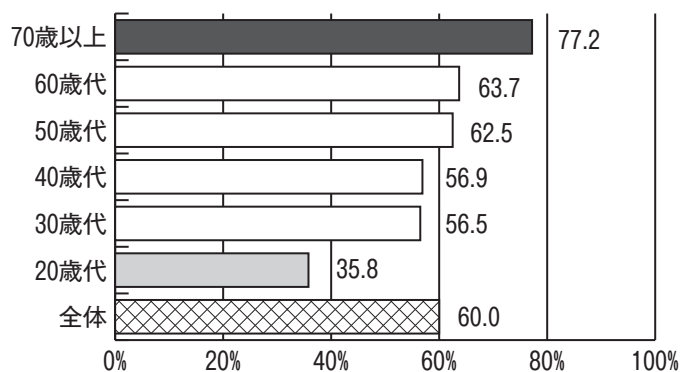
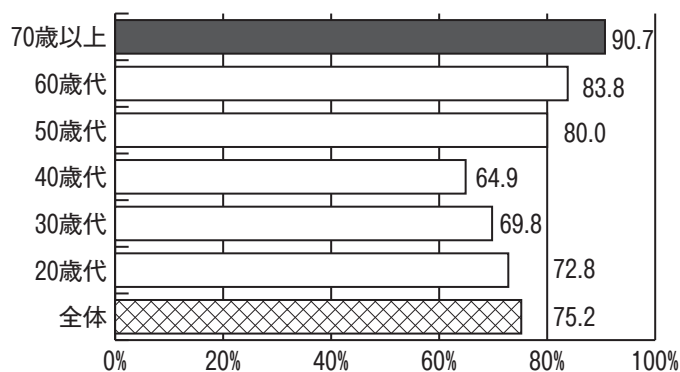


図10
仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上高い



4 京都府への定住意向との相関関係が高い項目

京都府への定住意向の有無を尋ねる「これからも京都府に住み続けたいと思うかどうか」という質問項目と高い相関関係がみられた項目は、次のとおりです。

- ① 京都府が優れたまち並みや景観、自然環境に恵まれていると思う
- ② 住んでいる地域について、個性や魅力を感じている

- ③ 住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う
- ④ 住んでいる地域が、高齢者や障害のある人をはじめ、子ども、成人、妊婦、外国人などすべての人にとって暮らしやすい地域であると思う
- ⑤ 京都府では歴史的な文化遺産や文化財等が社会全体で守られ、引き継がれていると思う

資料 京都指標「京都府民の意識調査」結果（平成 26 年 6 月実施）

「明日の京都」の体系	「府民意識調査」項目	割合		推移	
		○70%以上 ×30%以下		○増 ×減 —横ばい	25年度 (割合)
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	96	○	○	95
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	87	○	○	83
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思ふ人の割合	81	○	○	80
	働いている職場において、子育てに対する理解や支援が十分であると思ふ人の割合	62		×	65
	子どもが、学校に行くことやそこで学ぶことに楽しさややりがいを感じていると思ふ親の割合	89	○	○	88
	子どもの有無にかかわらず、学校行事や子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもの教育に参画している人の割合	42		×	46
	キャリアアップや趣味・娯楽、地域貢献活動やボランティア活動などを目的とした生涯学習に取り組んでいる人の割合	44		×	46
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	75	○	×	80
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	74	○	○	72
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると思ふ人の割合	69		—	69
	病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	60		—	60
	障害のある人と交流したり、障害のある人を支援する活動などに参画している人の割合	18	×	×	20
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	45		×	48
	家族介護の悩みを気軽に相談できる人がいる家族介護者の割合	61		×	63
	住んでいる地域に、デイサービスやショートステイなどの老人福祉施設、介護ボランティアやNPOなど、地域全体で高齢者を支える体制が十分に整っていると思ふ人の割合	65		×	66
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	60		×	64
	地域の防犯または防災活動に取り組んでいる人の割合	27	×	○	24
	地域共生の実現	地震などの災害に備えて、避難場所や経路の確認をはじめとする避難準備や物資の備蓄などに取り組んでいる人の割合	32		○
食料を購入する際、地元産であることを意識して選んでいる人の割合		60		○	58
日々の生活の中で、性別や身体状況などによる差別、虐待や誹謗中傷などの人権侵害があると感じていない人の割合		67		×	70
住んでいる地域が、高齢者や障害のある人をはじめ、子ども、成人、妊婦、外国人などすべての人にとって暮らしやすい地域であると思ふ人の割合		60		×	62
様々な地域課題に対応する自治会やNPOの活動などに参画している人の割合		22	×	×	26
府や市町村の実施する府民協働の取組に何らかの形で参画している人の割合		10	×	×	13
同居する家族と夕食を共にしている頻度		92	○	○	90
身の回りに親しい友人・仲間がいる、または、定期的に顔を出す場所がある人の割合		78	○	○	77
困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合		51		○	50
住んでいる地域で、自治会活動などのコミュニティ活動が活発に行われていると思ふ人の割合		57		×	58
京都力の発揮	配偶者が家事を十分に分担していると思ふ既婚者の割合	72	○	×	73
	住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合	62			
	住んでいる地域に、就業、交通、情報通信、医療、教育、上下水道などの定住に必要な基盤が十分に整っていると思ふ人の割合	73	○	×	77
	仕事を始め社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思ふ人の割合	52		×	56
	京都府が優れたまち並みや景観、自然環境に恵まれていると思ふ人の割合	88	○	○	87
	節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合	71	○	○	68
	住んでいる地域に、博物館や美術館、劇場や文化ホールなど、美術や音楽、演劇といった芸術文化活動を行うための場、あるいはそれらを鑑賞するための場が十分に整っていると思ふ人の割合	41		—	41
	京都府では歴史的な文化遺産や文化財等が社会全体で守られ、引き継がれていると思ふ人の割合	89	○	○	85
	地域の祭りや伝統行事に参画している人の割合	42		—	42
	着物を着用している人の割合	7	×	×	9
京都力の発揮	京都府では西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼をはじめとする伝統産業が社会全体で守られ、引き継がれていると思ふ人の割合	62		×	64
	フェイスブックやツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用している人の割合	30	×		
	海外に住む友人（海外在住の日本人を含む。）または国内に住む外国人の友人がいる人の割合	13	×	—	13
	将来叶えたい夢や実現したい目標がある人の割合	53		×	58
	これからも京都府に住み続けたいと思ふ人の割合	91	○	—	91
全 42 項目		○ 14 項目 (33%) × 7 項目 (16%)		○ 14 項目 (33%) × 20 項目 (47%)	

※調査結果を「京都指標」として利用するために、「そう思う」・「どちらかというと思う」等と回答した人の割合を算出して記載している。